

3月に新著「子どもの連れ去り問題 日本の司法が親子を引き裂く」を出版されたことを記念して、当事者でもあるジョーンズ先生に、我が国で起きている親子引き離し問題の実態、日本と諸外国の比較、ハーグ条約の問題など、離婚と子どもの養育に関わる法律の問題、法運用の問題を幅広くお話しいただく予定です。

第2部の討論会では、ジョーンズ先生の持論である「裁判所の対応が引き離し問題の原点」を出発点として、親子引き離し問題を解決するにはどうしたらいいのかを中心議題に、法律、政治、教育など様々な視点からの意見を出していただきたいと考えています。フロアからのコメントや質問など、積極的な参加を歓迎します。

＝帯より抜粋＝

2005年10月、ある男性が登校中の自分の9歳の娘を連れ去ろうとしたところ、逮捕された。(中略)ところが驚いたことに、この男性は弁護士だった。しかも元裁判官である。事件を起こした日は、家庭裁判所で元妻との調停が予定されていたという報道もあった。

元裁判官でも裁判所での調停より、我が子の「拉致」を選ぶような日本の家事司法とはどのようなものなのだろうか。(第1章より)

親子ネット主催

「子どもの連れ去り問題」を考える

—コリン・ジョーンズ先生出版記念講演会—

※どなたでもご参加いただけます。
※ご予約は不要です

参加費 1,000 円

【内容】

- 14:00-14:10 開会挨拶
- 14:10-14:55 コリン・ジョーンズ先生講演
「子どもの連れ去り問題
日本の司法が親子を引き裂く」
- 14:55-15:10 休憩
- 15:10-16:10 ジョーンズ先生を囲む討論会
「親子が引き裂かれないように
するにはどうすればよいのか」
- 16:10-16:15 閉会挨拶

【講師紹介】

Colin P. A. Jones 同志社大学法科大学院教授 (アメリカ契約法・英文契約実務、アメリカビジネス法、外国法実地研修A担当)、ニューヨーク州およびグアム準州弁護士。カリフォルニア大学バークレー校卒業後、東北大学大学院法学研究科博士前期課程を修了し、デューク大学ロースクール修了。Simpson Thacher & Bartlett 法律事務所、グローバル・クロッシング・ジャパン (株)、Latham & Watkins 外国法事務弁護士事務所などで弁護士として活動し、その後現職に至る。著作には「アメリカ人弁護士が見た裁判員制度」(2008) 平凡新書、「手ごわい頭脳 アメリカン弁護士の思考法」(2008) 新潮新書など。

平成23年11月12日(土)
14:00~16:15 (開場 13:30)

科学技術館6階第1会議室

〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園 2-1

TEL: 03-3212-3939

URL: <http://www.event-jsf.jp>

【東京メトロ東西線】

「竹橋」駅下車 1b出口 徒歩7分

【東京メトロ半蔵門線、東西線、都営地下鉄新宿線】

「九段下」駅下車 2番・4番出口 徒歩7分

